

お濠の生き物と浄化施設

皇居周辺の 12 のお濠は、都心の水生動物にとって皇居外苑を重要な生息地にしています。37 ヘクタールあるお濠への人間の介入を最小限に抑えることで、多様な動植物の生息を可能にしています。

お濠は、かつて江戸城の防御線であり、また物資の運搬手段でもありました。今日では、重要な水界生態系であり、人々に人気の憩いの場です。特に千鳥ヶ淵は、美しい景色が有名です。桜の季節には、東京で最も人気のあるお花見スポットのひとつとなっています。お濠にはモツゴなど約 25 の在来種の魚や、テナガエビなどが生息しています。また、昆虫や鳥も数多く生息し、特に冬には、キンクロハジロなどの渡り鳥がお濠にやってきます。ブルーギルなどの外来種もお濠に生息し、在来種への脅威となっています。

1995 年には、お濠の水質を保つための浄水システムが導入されました。1 日に約 2 万立方メートルの水が処理されています。システムの導入によりお濠の水質にはかなりの良い改善が見られ、日光が水底に届くようになったことで、新しい植物が育つようになりした。夜になると、お濠は他のエリアとは対照的にも暗くなります。照明を意図的に控え、お濠周辺の野生生物への影響を最小限にしています。